

X 地域づくり

ふれあい交流と地域づくり

直方市総合政策部男女共同参画推進室 直方市中央公民館係長 上野三鈴

<事業名>

ふれあい交流と地域づくり

<事業の目的>

高齢者が生きがいのある生活の実現を目指し、経験や知識を学習支援や、交流を通して地域や学校教育に役立てることで、社会参加活動の促進を図ることを目的とする。

<事業の実施主体>

直方鞍手地区はつらつ塾実行委員会 直方市中央公民館

<事業に至る経緯>

県、教育委員会が平成10年度から実施してきたふくおか高齢者大学事業に基づいて開設した直方鞍手地区高齢者大学事業、県事業の移行に伴う現在の直方鞍手はつらつ塾（直方市、宮若市、鞍手郡小竹町、鞍手町の実行委員会で運営）では、高齢者の学習と社会参加を学校支援という形で行い、これをふれあい交流と呼んでいる。このはつらつ塾が行っている小中学校とのふれあい交流事業を、直方市中央公民館の地域づくり事業の中心と考え、実施している。

<事業の内容>

小中学校とのふれあい交流事業については、学校の授業やクラブ活動の支援、また昼休みや夏休みの交流を行っている。

昼休みと夏休みの交流は、昼休みは直方市内11小学校のうち5校、夏休みは2校で実施。昼休みについては、毎週決まった曜日、学校の昼休み時間に校区のお年寄りが子どもたちとお手玉、おはじき、剣玉や囲碁将棋等で遊んでいる。夏休みはマジックや折り紙、お手玉等の昔遊びまた中学生や高校生が宿題やドリルで指導と、交流を図っている。

この交流事業は、最初は中央公民館のボランティアグループの協力を得ながら、高齢大学の受講生へと呼びかけを進め、学校からの依頼件数が増えてくるとともに、公民館講座の受講生やグループへと参加を拡げていった。次に全講座、申し込み時に所属校区を記入するようにし、活動への呼びかけを小学校区ごとに行うようにした。

このことによって、校区内ということで、支援者と小中学生が交流後も顔を合わせ、挨拶を交わすことでつながりが深まり、顔見知りになることで防犯にも役立つと考える。交

流の参加はまったくの無償で、交通費の支給もしてないので、交通手段の関係からも、地元の学校であれば行きやすく、また、講座内での交流がない受講生同士であっても、学校で会うことで親しくなり、近くの友人を誘ったりと、子どもたちとだけでなく、大人同士で楽しんだり、受講生間の親交もみられるようになった。

また講座の受講生だけでなく、地域住民にも参加を促すために、校区の公民館長会議や民生委員研修会等で説明を行い、理解と協力を求めている。行政内部では、社会教育係の地域指導員や介護保険事業地域包括支援センターとも連携を進めている。

このふれあい交流については多くの人に見学し、参加してほしいと、各小学校を順に1年に1度公開ふれあい交流を実施しているが、学校側は授業参観や学校公開の形をとり、当日は1年生から6年生まで一斉にふれあい交流で授業を行う。この公開については、平成11年度から実施しているが、18年度からは地元校区公民館に具体的に協力を依頼し、共催の形をとっている。

20年度実施の下境小学校区は、各公民館長が隣組長を通じて支援者を募集し、隣組長も各戸を回り、当日、学校への足の不便な支援者たちを車で送迎するなど、校区挙げての行事となり、97名の支援者の内、校区外の支援者は11名のみとなった。

当日は下記の表のとおりの内容で、交流を行った。

	単元・主題	
1年	生活科	紙ひこうきであそぼう
	生活科	むかしのうたをしろう
2年	生活科	冬野菜や花をそだてよう
3年	総合学習	竹細工 おはしづくり
4年	社会	昔のくらしと町づくり・昔のたべもの
5年1組	家庭	ナップザックをつくろう
5年2組	国語（書写）	文字の組み立て方（たれ）
6年1組	社会	戦争体験から学ぼう
にこにこ学級	生活	大きなシャボン玉をつくろう



3年 竹細工おはしづくり



6年 戦争体験から学ぼう

2年生の冬野菜は大根の種を蒔き育てたが、消毒や草取りなど何度も支援者が学校を訪れ様子を見、また5年生は、自然教室に持って行くナップザックが出来上がるまで指導を受けた子どもたちが、お土産の約束をしたと、手作りのプレートを持って帰り、それぞれ近くのお年寄りの家に手渡しで届けるなど、公開当日だけでなく交流が続いている。

